

編集後記

『事業承継』第8号をお届けします。

学会の本年度統一テーマ「事業承継の危機」に沿って、年次大会（名古屋，2018年12月）、オープンフォーラム（京都，2019年2月）を開催しました。その全容を特集1と特集2として会員の皆様にお届けします。また年次大会での会員諸氏による研究発表の要約も掲載しました。3本の査読付き研究論文は、大企業・中小企業を問わず、同族（親族）による事業承継が主流である日本の事業承継の「企業と家族」の課題に取り組んでいます。

『事業承継』が、事業承継研究の最前線を世に問うことができる唯一のジャーナルとしての位置づけを確かなものにするためにも、今後とも会員諸氏のご投稿や大会、オープンフォーラムへのご参加をお願いいたします。

日本の大（上場）企業の約半数と中小企業のほとんど全てが「同族（親族）による経営と所有」または「同族（親族）による所有」ですが、その事業承継がますます危機を深めています。危機の原因は多様で、したがって、多くの切り口から原因究明が語られ、危機を解消するアプローチも多様で、簡単で単純な危機克服の「決めて」はあり

ません。今後ますます議論を多様化し深化させなければならぬと思います。

年次大会とオープンフォーラムで、愛知県と京都府の事業承継支援の取り組みの、土地と産業に特異な事業支援のかたち・むつかしさ、成功例や失敗例の数々が紹介されています。日本全体で見れば、どれだけ膨大な数や深刻な事業承継のかたち・むつかしさがあるのか、想像もつきません。そういった中で、事業承継学会とその会員の皆様の手で、学術的・実践的の両面で、体系的な「事業承継学」を形成することができることを願っております。

本8号で、編集委員長の務めを終わらせていただきます。多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。

栗本博行編集委員、末包厚喜編集委員のご協力とご尽力に感謝申し上げます。編集委員会の事務を担当いただいた浅野一明先生には、投稿者との査読に関する丹念なコンタクト、編集委員間の調整、印刷所との作業など並々ならぬ労をとっていただきました。深くお礼申し上げます。

（編集委員長：林廣茂）

『事業承継 Vol.8』編集委員

林 廣茂（委員長）
栗本 博行
末包 厚喜